

事例6

視力障害があるため、今のうちに様々な手続きを終わらせ、施設に入りたい

視力の低下が進行している。自室での転倒もあり、アパートでの生活に不安を感じるようになった。施設に入りたいが、親族と疎遠のため身元保証人を頼める人がいない。人工透析を受けており、できれば透析クリニックへの通院介助を受けられる施設を希望。

ご本人情報

[年齢] 67歳 [認定] 要介護2

[病歴] 慢性腎不全 糖尿病
糖尿病性腎症
糖尿病性網膜症

[手帳] 身障 2級
視力障害

[ADL] 自立
服の着脱、入浴時に多少の介助が必要

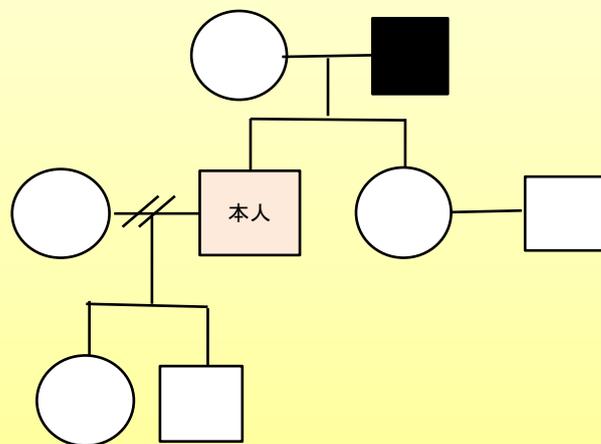
[経済状況] 年金(15万円/月)
預貯金(1,300万円)

[本人の意向]

・視力のあるうちに、アパートの解約や施設との契約などを済ませ、施設で暮らしたい。

・親族とは疎遠のため、一切連絡を取っていない。最期は終活コンシェルジュにすべてお願いしたい。

ご家族の状況



- ・離婚歴あり 元妻と長男・長女とは疎遠
- ・父親は他界
- ・母親と妹夫婦は同居 本人とは疎遠
- ・アパート住まい

必要とされている支援

施設紹介

入所時の身元保証

遺言書作成支援

死後事務委任

支援内容と動き

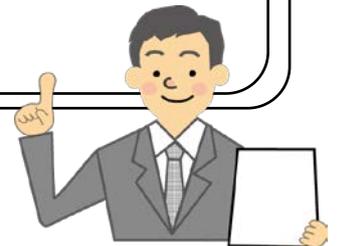
1. ケアマネジャーに同行いただき、アセスメント訪問。施設のご紹介から入所時の身元保証、万が一に備えた死後事務委任についてご説明

2. ご納得いただき、身元保証及び死後事務委任契約を締結。
また、透析クリニック併設の施設をいくつかご紹介し、見学・入所支援をおこなった

3. 入所後は毎月の定期訪問のほか、指定病院での検査等の通院介助、医師の診察時の同席をおこない、結果を施設へ報告、情報共有している

4. 万が一の場合、資産処理が円滑に行われる様、遺言書作成をご提案。本人の意向を伺いながら、公正証書遺言作成に向け準備中

施設長・ケアマネジャーと連携を取りながら、必要な支援を迅速におこなっています。定期訪問時のご本人の表情がとても落ち着き、穏やかであることが何よりと感じています



支援のポイント

- ◎ 緊急時や、病状の悪化による入院や医療同意を円滑に行えるための支援
- ◎ 安心して施設でお暮し頂く為の支援
- ◎ 本人が安心して最期を迎えられるような支援

